春型：夏型に比し大型，裏面，地色は黄色味が少く，眼状紋は小さくなる．前後翅外縁に沿う淡色2帯は，内側のものがはるかに幅広くなる．

夏型：より小型で，雌雄間に大きさの差が少い．翅表後翅第2室眼状紋は♂において屢々痕跡的となる．裏面眼状紋は大きく，互いに連続することも少くない．外縁の2帯はほとんど同幅，或いは内側のものがやや幅広くなる程度にすぎない．

45. *Melanitis leda* LINNÉ 1758 ウスイロコノマチョウ

Nase, 13-VIII-1957, 1♀; Yuwan, 14-VIII-1957, 2♂1♀; Kawauchi, 25-III-1959, 2♀; etc.
各地に多い．幼虫・蛹もイネから容易に見出だすことができる．

フタホシヨトウ（新称）*Hoplodrina euryptera* BOURSIN, 1937, について

杉 繁 郎[1)]

Occurence of *Hoplodrina euryptera* BOURSIN in Japan, Korea and Formosa, with notes on a synonymy (Noctuidae)

By SHIGERO SUGI

1955年に私が日本産 *Orthosia* 属の再分類をまとめたとき，朝鮮から1♂のみでブナキリガの亜種 *Monima paromoea* subsp. *marginepicta* BRYK として記載された蛾の正体が判らず，当時存命中の Dr. F. BRYK から Stockholm の Riksmuseumにあるその模式標本を送ってもらったことがあった．しかし不幸にしてこの蛾は，私の調べたところでは真の *Orthosia* ではなく，全く別の亜科 Amphipyrinae に属する1種で，"*Caradrina*-complex" というべき群に位置づけされることが判った．ただし当時はそれ以上の調査が不可能だったので，その旨簡単に脚註[2)] としてとどめておいた．ところがこの蛾は最近になって日本にも産することが明かになり，黒
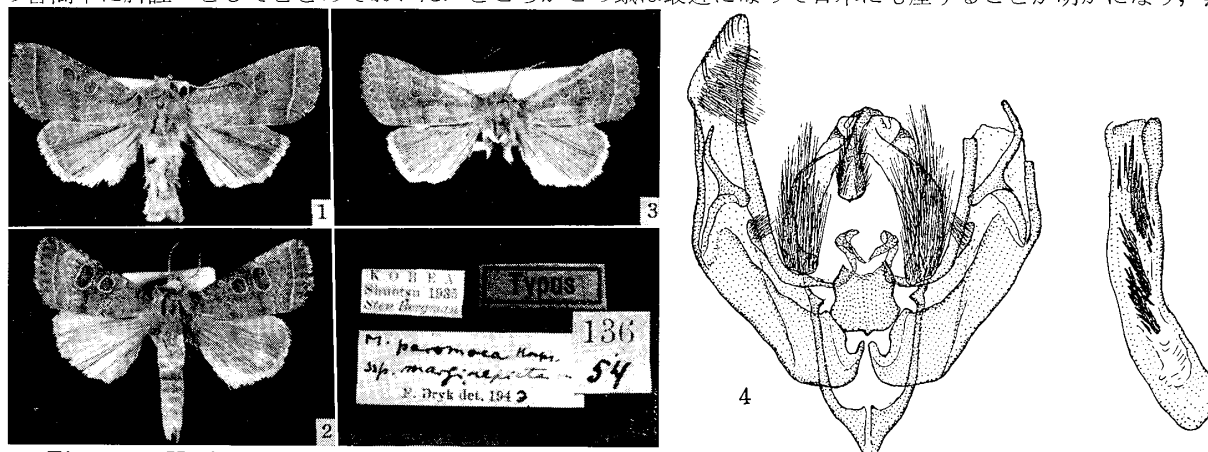
Fig. 1. *Hoplodrina euryptera* BOURSIN ♂, Japan.
Fig. 2. *Hoplodrina euryptera* BOURSIN ♂, Formosa, ex T. KANO Coll.
Fig. 3. *Hoplodrina euryptera=marginepicta* BRYK, Holotype ♂, Korea, in Coll. Riksmuseum, Stockholm.
Fig. 4. The male genitalia of *Hoplodrina euryptera=marginepicta* BRYK, Holotype. The apical half of the right valva damaged.

---

1) 東京都大田区入新井4—112
2) SUGI, S. Tinea, 2 : 94, 1955; see footnote.

子浩氏のご好意で彦山の標本を調べることができ，又東京の国立博物館にも台湾産の標本が保管されていることが判ったのでここに正しい学名と共に紹介しておくことにする．同定についてはParisの BOURSIN 氏からも教示を得たのでここにあつくお礼申上げる．なお標本の提供貸与を受けた九大彦山生物学研究所の黒子浩氏，国立科学博物館の黒沢良彦氏ならびに亡くなった故 F. BRYK 博士にも深く敬意を表したい．

Hoplodrina euryptera BOURSIN

Ent. Rdschau, 54 : 429, 1937

フタホシヨトウ（新称）

=*Monima paromoea marginepicta* BRYK, Arkiv f. Zool., 41A (1) : 80, 1948 (**New synonymy!**)

♂ 開張：30–34mm. 触角は微毛状．前翅は灰褐色で強く暗色鱗片を混ぜ，翅表中央と外縁部は一そう濃色を呈する．本種を識別するもっとも大きな特徴はきわめて大きな環状紋と腎状紋で，ともにその内方はやや暗色，周囲ははっきりした黄白色の細線でふちどられ，やや角ばった形をしている．亜外縁線も顕著で黄白色，かすかに屈曲しているが，事実上滑らかに走っている．外縁には翅脈上に微少な黒色の三角形の斑紋をつらね，その内側が淡色にふちどられてジグザグ状に見える．内・外横線はそれほど明瞭ではなく，前者はあらい波状で後縁に向って外方に傾斜し，後者は強く鋸歯状を呈するが，事実上多くは2重の暗色点列となってみえる．外横線の周囲は翅の地色がもっとも淡色である．後翅はほぼ一様な暗灰褐色である．

私はまだ♀の標本を見ていない．

♂交尾器の記載は省略するが，図示したとおりである（Fig. 4）

Specimens examined. Japan : 1♂, Hiko-san, N. Kyushu, 9. ix. 1954 (H. KUROKO). Formosa : 3♂♂, without exact locality and date (T. KANO), in the collection of National Science Museum, Tokyo. Korea : 1♂, Shuotsu, 1935 (STEN BERGMAN), the Type of *marginepicta*, in the collection of Riksmuseum, Stockholm.

Euryptera の模式産地は中国四川省の "Giufushan" (1800m) というところで，この蛾は中国西南部から台湾の山地，日本の西部を経て北朝鮮までかなり広く分布しているようである．原記載には図がないが，その後に DRAUDT[3] がこれを原色で図示している．属 *Hoplodrina* BOURSIN は西部アジアから欧州にかけて多数の種をもつ近縁の大属 *Caradrina* (=*Elaphria*) から♂交尾器の構造によって分離されたものだが，この両属を通じ東アジアではごく僅かしか分布しておらず，日本からは本種が最初の発見である．これらの属の分類上の関係については BOURSIN[4] 又は DRAUDT[3] を参照されたい．なお本種の彦山からの発見はすでに黒子[5] によって報告されている．

Summary. In my revision of the Japanese *Orthosia* published in 1955, I pointed out briefly that "*Monima paromoea* ssp. *marginepicta* BRYK is not an *Orthosia* but a member of the so-called "*Caradrina*-complex" (*Athetis* auct.) in the Amphipyrinae. My furthur study of the type, which was kindly sent me on loan, by the late Dr. F. BRYK reveals now that *marginepicta* must be sunk into *Hoplodrina euryptera* BOURSIN from Setzchwan, S. E. China. The synonymy is discussed above, and the distribution of *euryptera* thus ranges to N. Korea, where the type of *marginepicta* was taken, and also to Japan and Formosa, both of which are new localities recorded here.

---

3) DRAUDT, M. Addenda to the group of forms of the genus *Athetis* HB. in Seitz, Macrolep. suppl. 3 : 271–278, 1937.

4) BOURSIN, Ch. Beiträge zur Kenntnis der "Agrotidae–Trifinae" XX. Morphologische und systematische Studie über die Gattung *Athetis* HB (*Caradrina* Auct.) Verz. p. 209, 1822. Ent. Rdschau, 54 : 364–368, 388–391, 419–423, 429–432, 437–440, 1937.

5) 黒子浩．彦山昆虫目録，1. 鱗翅目，補遺1：14, 1959.